

関西医療大学活動状況報告

関西医療大学における最近の活動状況について

本学は、平成19年4月をもって関西医療大学と校名変更した。そして、現在のところは関西医療大学保健医療学部としている。この保健医療学部には、鍼灸学科と理学療法学科がある。鍼灸学科は、スポーツトレーナーコース、東洋医療コースの2コース制としている。このように、医療の多様化と受験生のニーズにこたえるべく学科の増設や教育内容の再編などを行ってきた。平成20年度には、多様性を持った柔道整復師の要請を目指したヘルスプロモーション整復学科が施設の予定である。さらに、本学は東洋医学を基本として時代の要請に即応するような教育研究機関としての充実を図ろうとしている。

平成18年度 関西医療（鍼灸）大学附属診療所の活動状況について

少子高齢化社会の中で、疾病構造の複雑化に伴い多様な患者さんの医療要求に答えることが急務となっている。一方で、患者数の増大に見合う診療体制の確立とリスク管理の必要にせまられている。

I. 一般診療所の活動

(1) 診療所活動の現況

地域の医療機関として認知度が増し、前年度の報告同様に一般診療・検診事業を含め患者数は毎年20%近く増加しつつあり、とくにリハビリ科、整形外科、神経内科における患者加が著しく、地域医療への貢献度も大きくなっている。

診療報酬の改定があったものの本学では、教育上の観点から慢性期神経疾患・整形外科的疾患の患者さんを中心に積極的なリハビリテーションを行なっている。また、医鍼連携の診療体制を確立するための鍼灸治療の見直しを計っている。

(2) 診療体制の充実

医療要求の多様化に対応するため、肥満・高血圧・糖尿病などのメタボリックシンドロームの予防を目標に平成17年10月より栄養指導を週1回継続している。リハビリ患者の増加に対しては、平成19年度4月より理学療法科が開設されるため人員を増加し、整形外科的疾患ばかりでなく、慢期神経疾患患者への対応も教育上の効果を考慮して、強化している。また、労災保険二次健康診断指定医療機関として承認さ

れ、以下のように検診事業を充実させた。

(3) 人間ドック・脳ドックおよび健康診断業務の充実

地域医療に貢献するため、ドック健診（人間ドック・脳ドック）、インフルエンザ予防接種、熊取町住民基本検診、企業健診などに積極的に取り組んだ。これら健康診断業務については、次第に地域の認知度も向上し、平成18年度も積極的に受け入れ、検診の充実を計った。

(4) 健康教室の充実

本年度から、本教室は熊取町ゆうゆう大学との共催となり、地域住民の健康増進を目的に、医師、鍼灸師、理学療法士及び医療職員が連携し東西医学を融合した健康講座を毎月1回を原則に開催している。これまで、脳卒中、更年期障害、生活習慣病、睡眠障害など主要テーマを中心に講演を行い、また、日常有用なツボ療法などの実技指導も取り入れ、好評を博し、日常生活に役立つヘルスアートの普及に努めている。

(5) 地域医療機関との連携

近隣の医療機関との連携を強化するため、MRIなどの検査依頼を近隣の医院から積極的に受け入れており、引き続きその依頼件数も増加しつつある。

II. 鍼灸治療所の活動

(1) 実習体制の充実

本年度から大学4年次の臨床実習が開始され、教育効果を上げるため、3~4人の教官が3週毎に交代し、指導教官の患者数の平均化を図り、学生間で実習内容に過不足がないよう配慮している。一般診療所の実習では、西洋医学的診断のもと学生が鍼灸の適否の判断を科学的に出来るよう配慮して見修をおこない、体験した3症例の主訴、病態、治療および鍼灸治療の適否についての意見をレポート形式で提出させ、評価している。

(2) 鍼灸師の卒後研修

鍼灸師の卒後教育施設として本学卒業生以外にも門戸を広げ、意欲のある鍼灸師47名（前年度比6名増）を研修鍼灸師として積極的に受け入れている。また、理学療法士についても見修理学療法士8名を積極的に受け入れている。

(3) 医鍼連携体制

西洋医学的診療をおこなっている一般診療所との医鍼連携を強化するため、肩凝り、腰痛、

膝関節痛など一般症状を中心に医師と鍼灸師が共同して、診断・治療に当たれる臨床チームを形成することを計画し、鍼灸治療法の基準化と料金体制の改定を計画している。

(4)臨床研究

現在、地域住民と共同した臨床研究として、膝関節痛に対する鍼治療の効果についての検討や地域医療機関と連携した透析患者の身体的苦痛に対する鍼治療の評価が、EBMに基づいて推進されている。

以上、平成19年4月より、本学は関西医療大学と改変・改組され、鍼灸学科は東洋医療コースとトレーナーコースの二コースが設けられ、また、新たに理学療法科が新設され、一学部二学科として健康医療学部統合されている。また、大学院（修士課程）も併設され、本診療所は、地域医療と臨床教育・研究のセンターとしての役割が益々重視されている。

大学専任教員

学 長 吉 益 文 夫
教 授 (50音順)

上 田 至 宏
郭 哲 次
金 井 成 行
川 本 正 純
亀 節 子
木 村 通 郎
栗 林 恒 一
黒 岩 共 一
河 野 暢 之
鈴 木 俊 明
谷 美 由 紀
津 田 和 志
戸 田 静 男
錦 織 綾 彦
平 尾 幸 久
湯 浅 亮 一
横 田 栄 夫
横 田 轟
吉 田 宗 平
若 山 育 郎

准 教 授 (50音順)

五十嵐 純
榎 田 高 士
大 西 基 代
榎 葉 均
吉 備 登
近 藤 哲 哉
武 田 大 輔

東 家 一 雄
増 田 研 一
山 本 博 司
講 師 (50音順)

遠 藤 宏
王 財 源
大 島 稔
木 村 研 一
坂 口 俊 二
武 田 秀 輔
谷 万 喜 子
中 吉 隆 之
鍋 田 理 恵
深 澤 洋 滋
万 戸 い ず み
山 口 由 美 子

助 教 (50音順)

内 田 靖 之
川 上 智 津 江
高 崎 恭 輔
田 中 仁 美
谷 埜 予 士 次
中 吉 隆 之
藤 原 清 治
山 崎 寿 也
吉 田 隆 紀
米 田 浩 久

助 手 (50音順)

尾 家 有 耶
百 合 邦 子

◇著 書

- 1) 王 財源ほか. 心因性疼痛. 加納龍彦, 田山文隆編集. 痛みのマネジメント. 初版. 東京. 医歯薬出版社. 2005: 131-139.
- 2) 内山 靖, 奈良 勲, 砂川尚也, 佐藤房郎, 原田和宏鈴木俊明ら. “震え”を止める—不随意運動に対する理学療法—奈良勲(編). 理学療法のとらえかた PART3. PART3. 東京. 文光堂. 2005: 102-115.
- 3) 谷埜予士次, 谷 万喜子, 米田浩久, 金井一暁, 山内仁, 大沼俊博ら. The Center of the Body —体幹機能の謎を探る—. 鈴木俊明(監). The Center of the Body —体幹機能の謎を探る—. 第1版. 東京. アイペック. 2005.
- 4) 有馬慶美, 武田貴好, 庄本康治, 川本博文, 小川恵一, 鈴木俊明ら. 足部の運動障害, 感覚障害により歩行困難を認めた46歳女性の右脳梗塞(左片麻痺)患者. 嶋田智明

(編) 有馬慶美 (編集協力) 武田貴好 (編集協力). ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ. 第1版. 東京. 文光堂. 2005 : 35-49.

◇論 文

国際論文

- 1) 王 財源. 中国歴代文献止咳臨床検討. 2005年国際鍼灸技法及臨床応用学術討論会論文集. 2005.10 ; 1 : 281-286.
- 2) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 従統合医療的訊問調査来検討. 2005年国際鍼灸技法及臨床応用学術討論会論文集. 2005.10 ; 1 : 262-274.
- 3) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 从統合医療的詢問調査来検討針灸民意調査. 2005年国際針灸技法及臨床応用学術検討会論文集 (北京). 2005 : 262-274.
- 4) Kimura K, Masuda K, Wakayama I. Changes in skin blood flow and skin sympathetic nerve activity in response to manual acupuncture stimulation in humans. *Am J Chin Med.* 2006 ; 32(2) : 189-96.
- 5) Miyai N, Terada K, Sakaguchi S, Minami Y, Tomura T, Yamamoto H et al. Preliminary study on the assessment of peripheral vascular response to cold provocation in workers exposed to hand-arm vibration using laser doppler perfusion imager. *Ind Health.* 2005 ; 43 : 548-555.
- 6) Hirose H, Suzuki T, Shimada T. Patterned ground reaction forces and electromyographic activities in the lateral sitting transfers -The influence of trunk forward tilting-. *Bulletin of Health Sciences Kobe.* 2005 ; 121 : 57-64.
- 7) Hirose H, Suzuki T, Shimada T. Excitability of spinal motor neuron function after the transcutaneous electrical stimulation (TES) in healthy subjects -F-wave study-. *J Jpn Phys Ther Assoc.* 2006 ; 9 : 17-20.
- 8) Sang Kil Ha-Kawa, Yoshida T, Yague T, Tani M, Suzuki T, Sawada S. Acupuncture-induced cerebral blood flow responses in dystonia. *Annals of Nuclear Medicine.* 2006 ; 20 : 83-87.
- 9) Jang MH, Sougawa N, Tanaka T, Hirata T, Hiroi T, Tohya K, Guo Z, Umemoto E, Ebisuno Y, Yang BG, Seoh JY, Lipp M, Kiyono H, Miyasaka M. CCR7 is critically important for migration of dendritic cells in intestinal lamina propria to mesenteric lymph nodes. *The Journal of Immunology.* 2006 ; 176(2) : 803-810.
- 10) Shizuo Toda. Antioxidative effects of polyphenols from leaves of *Artemisia princeps* PAMP. on lipid peroxidation in vitro. *J. Food Biochem.* 2005 ; 29 : 305-312.
- 11) Shizuo Toda. Antioxidant effects of Ogikeishigomotsu to, *Astragali Radix* (Ogi) and isoflavones in *Astragali Radix* on oxidative stress in vitro. *J. Trad. Med.* 2005 ; 22(Suppl.1) : 162-166.
- 12) Shizuo Toda. Antioxidative effects of polyphenols in leaves of *Houttuynia cordata* on protein fragmentation by copper-hydrogen peroxide in vitro. *J. Med. Food.* 2005 ; 8(2) : 266-268.
- 13) Shizuo Toda. Acupuncture treatment on eyestrain due to stress. *North Am. J. Oriental Med.* 2005 ; 12(35) : 19.
- 14) Shizuo Toda and Toshiaki Shirataki. Antioxidative activity of 6a-hydroxypterocarpan from the root of *Sophora chrysophylla*. *Fitotherapia.* 2005 ; 76 : 728-729.
- 15) Shizuo Toda. Inhibitory effects of resveratrol oligomers in *Sophora mooracroftiana* on oxidative stress. *Recent Progress in Medicinal Plant.* 2005 ; 12 : 297-305.
- 16) Shizuo Toda. Acupuncture treatment for blood stagnation menstrual disorders. *North Am. J. Oriental Med.* 2006 ; 13(36) : 19-20.
- 17) Shizuo toda. Effects of moxibustion on catecholamine. *World J. Acu-Moxi.* 2006 ; 16(1) : 26-27.

国内論文

- 1) 河内 明, 亀井陽子, 金 睦子, 久下浩史, 王 財源, 北出利勝ほか. 慢性腰痛患者に対する箱灸を併用した鍼治療の検討. *東洋医学とペインクリニック.* 2005 ; 35 : 14-17.
- 2) 山田春菜, 王 財源邦訳. 中医臨床による難治性疾患による不整脈の検討. *東洋医学とペインクリニック.* 2005 ; 35 : 24-30.
- 3) 王 財源, 遠藤 宏, 吉備 登, 北村 智,

- 上田至宏. 古代中国における三焦の文献的研究—三焦蔵象について—. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 20-29.
- 4) 王 財源. 脱毛症についての中医学的検討. 医道の日本. 2005 ; 64(8) : 64-67.
- 5) 王 財源. 精血同源に解説される「血能化精」の解釈について. 東洋学術出版社. 2005 ; 26(4) : 120-122.
- 6) 王 財源. 中国における刺針安全深度の研究と進展状況の研究. (社) 全日本鍼灸学会雑誌. 2006 ; 56(1) : 43-46.
- 7) 王 財源. 気滞型胆石症に対する鍼治療の検討. 鍼灸 OSAKA. 2005 ; 21(1) : 65-67.
- 8) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第1報) 関西鍼灸大学, 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 13-19.
- 9) 吉備 登, 榎田高士, 北村 智, 王 財源, 中吉隆之, 吉田宗平. 各種負荷刺激による皮膚電気変化と自律神経機能の関連について, 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 130-131.
- 10) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する医師・鍼灸師・医療系および非医療系学生の意識調査, 日本代替医療・相補・伝統医療連合会議誌 第8回 JACT 大会 2005 (福岡) 講演集. 2005 ; 6, 8 : 62.
- 11) 小川卓良, 形井秀一, 坂井友実, 伊藤公代, 小山 進, 木村研一, 岡田安代, 原口明子, 公文絵美子. シンポジウムⅡ「私の活躍の場は」—鍼灸師急増の時代を迎えて—. 全日本鍼灸学会雑誌. 2005 ; 55(5) : 670-84.
- 12) 木村研一, 榎田高士, 西山 稔, 別所寛人. 灸頭鍼療法と赤外線照射の併用により火傷が生じた一症例. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 50-53.
- 13) 山本 温, 木村研一, 坂口俊二, 若山育郎, 吉田宗平. 暗算負荷による心血管系反応と神門穴の鍼刺激による影響. 関西鍼灸大学紀要. 2006 ; 3 : 14-19.
- 14) 木村研一. 梨状筋症候群の鍼灸. 日本医事新報. 2006 ; 4273 : 100-101.
- 15) 栗林恒一, 笠原由紀, 田原壮平. 鍼と免疫. 全日本鍼灸学会雑誌. 2005 ; 55(2) : 114-122.
- 16) 坂口俊二, 寺田和史. ツボ刺激によるセルフケアプログラムが肩こり感やストレスホルモンに及ぼす影響. 関西鍼灸大紀. 2005 ; 2 : 30-6.
- 17) 坂口俊二, 亀 節子, 榎田高士, 吉備 登, 上田至宏, 栗林恒一 他. 鍼灸臨床試験の統計学的手法の検討. 関西鍼灸大紀. 2005 ; 2 : 37-41.
- 18) 坂口俊二. 瘀血からみた冷え症の鍼灸治療. 医道の日本. 2005 ; 739 : 29-34.
- 19) 坂口俊二. 少数穴使用による鍼灸の臨床効果—和文献による検討—. 全日鍼灸会誌. 2005 ; 56(1) : 50-1.
- 20) 坂口俊二. あんまはりきゅうの未来を展望して. 日本東洋医学系物理療法学会誌. 2005 ; 30 : 26-7.
- 21) 形井秀一, 篠原昭二, 浦山久嗣, 小林健二, 坂口俊二, 香取俊光 他. 第5回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議報告. 医道の日本. 2005 ; 745 : 124-34.
- 22) 西守 隆, 大工谷新一, 谷埜予士次, 高崎恭輔, 鈴木俊明. 立位での一側下肢挙上動作における足底圧中心軌跡と下肢筋筋活動の立ち上がり潜時について—テーピングによる横足根関節可動域制限の有無における検討—. 理学療法科学. 2005 ; 20 : 17-23.
- 23) 大沼俊博, 渡邊裕文, 鈴木俊明. 頸肩腕症候群に対するマッサージ治療. マニピュレーション. 2005 ; 20 : 8-14.
- 24) 米田浩久, 鈴木俊明. 立位での右下肢の前後ステップ動作時における腹筋群筋活動の検討. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 42-49.
- 25) 弓永久哲, 三浦雄一郎, 鈴木俊明. 動作分析に動作筋電図検査を用いた小脳出血の一症例. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 54-61.
- 26) 高田あや, 谷 万喜子, 井上博紀, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平. 罹病期間が長期の頸部ジストニア患者に対する鍼灸治療—心理的要因が関与した一症例—. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 62-66.
- 27) 金井一暁, 鈴木俊明. 体幹および下肢に著明な不随意運動を認めた多発性硬化症患者の不随意運動に対する表面筋電図学的検討. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 67-74.
- 28) 入來宏光, 米田浩久, 鈴木俊明. 両側立脚中期から後期にかけて前方への円滑な体重移動が困難であった多発性神経炎患者に対する運動療法—体幹・骨盤の動きに着目することの重要性—. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 75-81.
- 29) 松岡成治, 米田浩久, 鈴木俊明. 治療として立位での側方移動が重要であった脳血管障害片麻痺患者に対する筋電図学的検討. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 82-88.
- 30) 森 健浩, 米田浩久, 鈴木俊明. 分廻し歩

- 行を呈する右片麻痺患者における歩行時の麻痺側離床動作と体幹筋の活動について. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 89-94.
- 31) 古賀和美, 米田浩久, 鈴木俊明. 足部内反尖足により歩行困難であった脳血管障害片麻痺患者. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 95-100.
- 32) 丸岡純子, 中塚和樹, 松岡成治, 米田浩久, 鈴木俊明. 両側足底の感覚が重度鈍麻で立位姿勢と歩行動作に問題が認められた多発神経炎患者の一症例. 関西鍼灸大学紀要. 2005 ; 2 : 101-107.
- 33) 金井一暁, 米田浩久, 鈴木俊明. 内腹斜筋へのアプローチにより座位保持の安定性に改善がみられた脳幹出血後遺症患者に対する一考察. 大阪府理学療法士会誌. 2005 ; 33 : 37-43.
- 34) 谷 万喜子, 鈴木俊明, 高田あや, 柳生隆視, 木下利彦. 統合失調症治療中に発症した重度の軸性ジストニアに対する鍼治療効果. 精神神経学雑誌. 2005 ; 107(8) : 802-810.
- 35) 福島秀晃, 三浦雄一郎, 鈴木俊明. マッサージによるアプローチ —近年の手技のあらましと一症例にみる考察マニピュレーション—. 2005 ; 20(4) : 62-69.
- 36) 鈴木俊明. 脊髄の運動制御機構. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 1-9.
- 37) 魚住 心, 鈴木俊明. セラピストのための身体操作. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 77-82.
- 38) 弓永久哲, 鈴木俊明, 米田浩久, 若山育郎. 非麻痺側腰背筋の筋緊張亢進により, 麻痺側上肢に著明な連合反応が誘発された脳血管障害患者に対する筋電図学的検討. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 83-89.
- 39) 藤本将志, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 中道哲郎, 鈴木俊明. 端座位における側方への一側手支持が体幹筋の筋活動に与える影響. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 91-95.
- 40) 伊藤正憲, 弓永久哲, 鈴木俊明. 非利き手の運動課題による聴覚刺激に対する筋電図反応時間 — 一側および両側刺激と刺激回数変化における検討 —. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 97-101.
- 41) 弓永久哲, 鈴木俊明, 若山育郎. 上部体幹の可動性低下により体幹筋の機能不全が生じた脳血管障害患者の一症例. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 109-118.
- 42) 坂田真未, 金井一暁, 鈴木俊明. 腹斜筋および中殿筋の筋緊張異常によって歩行の実用性に問題を認めたウイルス性脳炎後遺症患者について. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 119-124.
- 43) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之・吉益文夫. 和歌山県スモン患者における座位・立位の前方移動能力の経年変化スモンに関する調査研究班 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006 : 97-100.
- 44) 西守 隆, 大工谷新一, 谷埜予士次, 高崎恭輔, 鈴木俊明. 立位での一側下肢挙上動作における足底圧中心軌跡と下肢筋筋活動の立ち上がり潜時について — テーピングによる横足根関節可動域制限の有無における検討 —. 理学療法科学. 2005 ; 20 : 17-23.
- 45) 山口剛司, 高崎恭輔, 大工谷新一. 足圧中心変化に伴う足部周囲筋の筋積分値相対値変化. 関西理学療法. 2005 ; 5 : 103-108.
- 46) Shizuo Toda. Effect of acupuncture on vascular permeability as a first phase of inflammation. Bull. Kansai College Oriental Med. 2006 ; 3 : 28-30.
- 47) Shizuo Toda. Inhibitory effects of rhaponticin on copper-induced lipid peroxidation in vitro. Bull. Kansai College Oriental Med. 2006 ; 3 : 26-27.
- 48) 戸田静男. 腹証にもとづく瘀血の鍼灸治療. 医道の日本. 2005 ; 739 : 41-45.
- 49) 戸田静男. ストレスに対する眼精疲労に対する鍼灸治療 北米鍼灸学誌. 2005 ; 12(35) : 78.
- 50) 戸田静男. 月経不順における瘀血の鍼灸治療. 北米鍼灸学誌. 2006 ; 13(36) : 50-51.
- 51) 吉田宗平, 木村研一, 坂口俊二, 池藤仁美, 中吉隆之, 鍋田理恵, 山崎寿也, 吉備 登, 榎田高士, 川本正純, 坂村悌佑. 耳介への微小金属粒子添付に伴うイオン相乗効果の検証 — 脈拍変動時系列データのカオス解析を中心として —. 関西鍼灸大学紀要. 2006 ; 3 : 60-65.
- 52) Erika B. Kubo, Takashi Umeda, Sohei Yoshida, Kazunari, Mori. Neck Stiffness and Horner's Syndrome Caused by Excision of Cervical Neurinoma Treated by Acupuncture. 関西鍼灸大学紀要. 2006 ; 3 : 66-71.
- 53) 池藤仁美, 川本正純, 吉田宗平, 坂口俊二, 吉備 登. 鍼灸臨床情報の電子データベース化とその応用 (平成16年度 共同および奨励研究報告). 関西鍼灸大学紀要. 2006 ;

3 : 81.

- 54) 吉田宗平, 横田 轟, 川本正純, 木村研一, 坂口俊二, 中吉隆之, 池藤仁美. サウンド機能を用いた脈波収集装置の開発ー耳介医学における VAS の科学化とその診断システムの構築ー. 関西鍼灸大学紀要. 2006 ; 3 : 82-87.
- 55) 小西哲郎, 西田祐子, 林 理之, 上野 聡, 楠 進, 藤村晴俊, 階堂三砂子, 松下彰宏, 上田進彦, 吉田宗平, 船川 格. 平成 17 年度近畿地区におけるスモン患者の検診結果. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成17年度総括・分担研究報告書. 2006 : 32-34.
- 56) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 吉益文夫. 和歌山県スモン患者における坐位・立位の前方移動能力の経年変化 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成 17 年度総括・分担研究報告書. 2006 : 97-100.

◇学会発表

国際学会

- 1) 王 財源, 遠藤 宏, 吉備 登. 中国歴代文献止咳臨床検討. 2005 年国際鍼灸技法及臨床応用学術検討会. 中国北京. 2005. 10.
- 2) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 从統合医療的詢問調査来検討針灸民意調査. 2005 年国際針灸技法及臨床応用学術検討会. 北京. 2005. 10.
- 3) Kuribayashi K. Effects of Acupuncture on Cytokine Production from T cells. (Keynote Lecture). WFAS International Symposium of Acupuncture. Portugal. 2005. 11.

国内学会

- 1) 王 財源. 中国における刺針安全深度の研究と進展状況. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 2) 鈴木けい子, 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 高橋研一. 一般市民の代替医療に関する学生の意識調査 (第 1 報). 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 3) 河内 明, 松尾征男, 平井清子, 久下浩史, 王財源, 北出利勝ほか. 肩凝りに対する音楽リズム鍼療法の効果. 第 54 回全日本鍼灸

学会学術大会. 福岡. 2005. 6.

- 4) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第 7 報) ー鍼灸学校間の比較ー. 第 57 回日本良導絡自律神経学会学術大会. 東京. 2005. 10.
- 5) 中吉隆之, 吉備 登, 王 財源, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第7報) ー一学年, 男女間の比較ー. 第 57 回日本良導絡自律神経学会学術大会. 東京. 2005. 10.
- 6) 山本博司, 王 財源, 吉備 登, 中吉隆之, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第 9 報) ー2003年と2004年の比較ー. 第 57 回日本良導絡自律神経学会学術大会. 東京. 2005. 10.
- 7) 王 財源. 日本における鍼治療の現状と展望ー麻酔科鍼灸の立場からー. 第 35 回日本慢性疼痛学会学術大会. 東京. 2006. 2.
- 8) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第 6 報) 医療系学生・医療従事者・一般市民と学生. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 9) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 代替医療に関する学生の意識調査 (第 3 報) ー鍼灸学校間の比較ー. 第 57 回日本良導絡自律神経学会学術大会. 東京. 2005. 10.
- 10) 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子, 高橋研一. 医療従事者・医療系学生・非医療系学生・一般市民に対する代替医療に関する意識調査. 第 9 回日本代替・相補・伝統医療連合会議. 第 5 回日本統合医療学会合同大会 2005 in 京都. 京都. 2005. 12.
- 11) 高橋研一, 吉備 登, 王 財源, 中吉隆之, 山本博司, 鈴木けい子. 代替医療に関する意識調査 ー 療術から見た伝統医療の問題点ー. 第 9 回日本代替・相補・伝統医療連合会議, 第 5 回日本統合医療学会合同大会 2005 in 京都. 京都. 2005. 12.
- 12) 山本 温, 木村研一, 坂口俊二, 若山育郎, 吉田宗平. 暗算負荷による心血管系自律神経機能の変化と置鍼刺激の効果. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 13) 小川卓良, 形井秀一, 坂井友実, 伊藤公代, 小山 進, 木村研一, 岡田安代, 原口明子, 公文絵美子. シンポジウムⅡ「私の活躍の場は」ー鍼灸師急増の時代を迎えてー. 第

- 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 14) 奥田 学, 田原壮平, 笠原由紀, 榎田高士, 松尾貴子, 栗林恒一. 鍼刺激がヒト末梢血リンパ球のサイトカイン発現様式に与える影響. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 15) 坂口俊二. 関西鍼灸大学透析研究班の 2 年間の取り組みについて. 第 2 回維持透析患者の補完・代替医療研究会関東支部会. 東京. 2005. 4.
- 16) 坂口俊二, 山崎寿也, 榎田高士, 若山育郎. 維持透析患者に対する円皮鍼治療の一症例 (第 2 報). 第 56 回日本東洋医学会学術総会. 富山. 2005. 5.
- 17) 坂口俊二, 津嘉山 洋, 若山育郎. 慢性腰痛症に対する皮内鍼治療臨床試験 (探索的研究). 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 18) 坂口俊二. 11 回の第二次日本経穴委員会作業部会と 4 回の非公式諮問会議の歩み. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 19) 坂口俊二. 少数穴使用による鍼灸の臨床効果. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 20) Sakaguchi S, Terada K, Tomura T, Yoshimasu K, Miyashita K. Thermographic characteristics of symptoms due to hand-arm vibration exposure. 第 13 回日本人体振動研究会. 大阪. 2005. 8.
- 21) 藤本将志, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 中道哲朗, 鈴木俊明. 端座位における側方への一側手支持が体幹筋の筋活動に与える影響—荷重量の変化による検討—. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 22) 赤松圭介, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 藤本将志, 中道哲朗, 鈴木俊明. 胸郭可動域制限が頸部呼吸筋に及ぼす影響—背臥位と座位による検討—. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 23) 谷埜予士次, 大工谷新一, 西守 隆, 高崎恭輔, 金井一暁, 鈴木俊明. 静止立位保持中のヒラメ筋より導出される LLR の再現性—下腿三頭筋の収縮課題前後における検討—. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 24) 金井一暁, 鈴木俊明. 健常者におけるステップ動作時の足圧中心軌跡と下肢および体幹筋の筋活動. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 25) 弓永久哲, 鈴木俊明. 腰方形筋の等尺性収縮が上肢脊髄運動神経機能に与える影響—F 波における検討—. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 26) 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 藤本将志, 中道哲朗, 鈴木俊明. 座位における体幹前傾による前方移動距離が腹斜筋群と腰背筋群の筋積分値に及ぼす影響. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 27) 中野治郎, 鈴木俊明, 弓削 類, 堤 定美. 筋, 骨, 神経の基礎研究と再生医療の動向. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 28) 三浦雄一郎, 福島秀晃, 布谷美樹, 田中伸幸, 山本栄里, 鈴木俊明. 肩関節屈曲動作に伴う外腹斜筋の機能. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 29) 福島秀晃, 三浦雄一郎, 布谷美樹, 田中伸幸, 山本栄里, 鈴木俊明. 肩関節初期屈曲・外転角度での僧帽筋の機能について. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 30) 山口剛司, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 藤本将志, 大工谷新一, 鈴木俊明. ステップ肢位における支持側足部内反筋群の筋積分値および足底圧分布. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 31) 鈴木俊明, 弓永久哲, 谷 万喜子, 若山育郎, 吉田宗平, 谷口 清. 動作分析から考案したジストニア装具の紹介. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 32) 米田浩久, 鈴木俊明. 健常者におけるステップ動作中の体幹筋の筋活動—前方ステップと後方ステップにおける検討—. 第 40 回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 33) 氏原輝子, 鈴木俊明, 弓永久哲. 太白への鍼刺激が等尺性収縮時の大腿四頭筋機能に与える影響. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 34) 中吉隆之, 吉田宗平, 鈴木俊明, 池藤仁美. 耳介に対する電氣的探索の反応部位について—ジストニア患者とスモン病患者の比較—. 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 35) 高田あや, 谷 万喜子, 井上博紀, 赤川淳一, 吉野真紀, 鈴木俊明, 若山育郎. 鍼治療が頸部ジストニア患者の心理的問題に与

- える影響. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 36) 井上博紀, 谷 万喜子, 高田あや, 鈴木俊明, 玉垣千春. 書癢を含む上肢ジストニア1症例に対する鍼治療効果. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 37) 谷 万喜子, 高田あや, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平, 柳生隆視, 木下利彦. うつ病治療中に発症した下肢ジストニア患者に対する鍼治療効果. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 38) 伊藤正憲, 弓永久哲, 鈴木俊明. 聴覚刺激に対する筋電図反応時間の検討—単耳および両耳刺激と刺激回数に着目して—. 第18回兵庫県理学療法士学会. 兵庫. 2005. 7.
- 39) 南 安明, 弓永久哲, 鈴木俊明. 陽陵泉の鍼刺激がヒラメ筋に対応した脊髄神経機能の興奮性に与える影響. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 40) 竹岡哲也, 弓永久哲, 鈴木俊明. 陽陵泉の鍼刺激が等尺性収縮時の大腿四頭筋機能に与える影響. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 41) 西村栄津子, 谷 万喜子, 酒井英謙, 井上博紀, 高田あや, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平. 体幹部に異常がみられた頸部ジストニア患者に対する鍼治療効果. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 42) 上田 愛, 高田あや, 谷 万喜子, 鈴木俊明, 木下利彦. 頸部回旋偏倚を呈した頸部ジストニア患者に対する鍼治療効果に関する研究—頸部筋反応時間による検討—. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 43) 酒井英謙, 谷 万喜子, 西村栄津子, 井上博紀, 高田あや, 鈴木俊明. 左合谷への鍼刺激が左胸鎖乳突筋の運度前反応時間に与える影響. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 44) 氏原輝子, 弓永久哲, 谷 万喜子, 鈴木俊明. 太白への鍼刺激が大腿四頭筋等尺性収縮時の筋機能に与える影響—等尺性収縮中の筋力・筋積分値の変化—. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 45) 中道哲朗, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 藤本将志, 鈴木俊明. 立位における骨盤後傾角度変化が大腿二頭筋の筋積分値に及ぼす影響. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 46) 弓永久哲, 鈴木俊明. 姿勢変化による上肢脊髄運動神経機能の興奮性の変化. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 47) 藤本将志, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 赤松圭介, 中道哲朗, 鈴木俊明. 立位における側方への体重移動の変化が大殿筋の筋積分値に及ぼす影響—大殿筋上部線維と下部線維に着目して—. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 48) 大工谷新一, 谷埜予士次, 山内 仁, 中里伸也, 鈴木俊明. 荷重位での下腿三頭筋トレーニング(カーフレイズ)では母指球支持を強調してよいか?. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 49) 大沼俊博, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 三好裕子, 赤松圭介, 藤本将志, 中道哲朗, 鈴木俊明. ブリッジ動作初期における極軽度臀部挙上が体幹・下肢筋の筋積分値に与える影響—開始肢位での股関節屈曲角度変化による検討—. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 50) 谷埜予士次, 大工谷新一, 西守 隆, 高崎恭輔, 金井一暁, 鈴木俊明. 静止立位保持中のヒラメ筋より導出されるLLRの再現性—下腿三頭筋の収縮課題前後における検討—. 第40回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 51) 高崎恭輔, 大工谷新一, 西守 隆, 金井一暁, 谷埜予士次, 鈴木俊明. 熟練投手のワインドアップ期では, 投球ごとに支持側COPは変動するが体幹傾斜角度の変動は少ない. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 52) 田原壮平, 奥田 学, 岡田佳子, 笠原由紀, 丹羽岳志, 栗林恒一. アロマオイルがMacrophage Cell Lineのサイトカイン産生に与える影響について. 第8回日本補完代替医療学会学術集会. 東京. 2005. 11.
- 53) 東家一雄, 深澤洋滋, 木村通郎, 栗林恒一. BNラット免疫応答におけるサイトカイン産生様式への灸刺激の影響. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 54) 東家一雄. シンポジウム「免疫細胞のトラフィック」リンパ球ホーミングを調節する接着分子の免疫電顕的局在. 第16回樹状細胞研究会. 福岡. 2005. 7.
- 55) 東家一雄, 木村通郎. シンポジウム「リンパ球の分化とその場」免疫応答の場としてのリンパ組織における接着分子の発現. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会.

- 相模原. 2006. 3.
- 56) 戸田静男. 鍼灸における内傷. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 57) 戸田静男. 艾葉の酸化的ストレスによる生体生涯に対する抑制作用. 第56回日本東洋医学会学術総会. 富山. 2005. 5.
- 58) 平尾幸久, 東家一雄. マウス及びハムスターの卵管漏斗部と卵巣の位置関係及びその微細構造に関する新しい知見. 第46回日本哺乳動物卵子学会. 八戸市. 2005. 5.
- 59) 小西哲郎, 西田祐子, 林 理之, 上野 聡, 楠 進, 藤村晴俊, 階堂三砂子, 松下彰宏, 上田進彦, 吉田宗平, 船川 格. 平成17年度近畿地区におけるスモン患者の検診結果. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成17年度研究報告会. 東京. 2006. 2.
- 60) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 吉益文夫. 和歌山県スモン患者における坐位・立位の前方移動能力の経年変化. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成17年度研究報告会. 東京. 2006. 2.
- 61) 鈴木俊明, 弓永久哲, 谷 万喜子, 若山育郎, 吉田宗平, 谷口 清. 動作分析から考案したジストニア装具の紹介. 第40回日本理学療法学術大会. 大阪. 2005. 5.
- 62) 中吉隆之, 吉田宗平, 鈴木俊明, 池藤仁美. 耳介に対する電氣的探索の反応部位について —ジストニア患者とスモン病患者の比較—. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 63) 谷 万喜子, 高田あや, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平, 柳生隆視, 木下利彦. うつ病治療中に発症した下肢ジストニア患者に対する鍼治療効果. 第54回全日本鍼灸学会学術大会. 福岡. 2005. 6.
- 64) 西村栄津子, 谷 万喜子, 酒井英謙, 井上博紀, 高田あや, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平. 体幹部に異常がみられた頸部ジストニア患者に対する鍼治療効果. 第25回全日本鍼灸学会近畿学術集会. 大阪. 2005. 10.
- 65) 鈴木俊明, 谷 万喜子, 上田 愛, 高田あや, 井上博紀, 若山育郎, 吉田宗平. ジストニア患者への罹患筋への運動指導は慎重に行うべきである. 第45回近畿理学療法学術大会. 滋賀. 2005. 11.
- 66) 鈴木俊明, 谷 万喜子, 井上博紀, 高田あや, 若山育郎, 吉田宗平. スロットマシン遊技により発症した上肢ジストニアに対する鍼治療効果. 第35回日本臨床神経生理学学会学術大会. 福岡. 2005. 12.
- 67) 吉田宗平, 小柳清光, 河上江美子, 井手重里. 二世代に亘るMg欠乏ラット中脳黒質におけるFeの定量と化学状態分析. 第46回日本神経学会総会. 鹿児島. 2005. 5.
- 68) 小西哲郎, 西田祐子, 林 理之, 上野 聡, 楠 進, 藤村晴俊, 階堂三砂子, 松下彰宏, 上田進彦, 吉田宗平, 船川 格. 平成17年度近畿地区におけるスモン患者の検診結果. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成17年度研究報告会. 東京. 2006. 3.
- 69) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 吉益文夫. 和歌山県スモン患者における坐位・立位の前方移動能力の経年変化. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班 平成17年度研究報告会. 東京. 2006. 3.

◇講 演

- 1) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2005. 3.
- 2) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 4.
- 3) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 5.
- 4) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2005. 6.
- 5) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 6.
- 6) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 7.
- 7) 王 財源. 中医鍼灸治療学講義. 東洋医療専門学校東洋医学研究会. 大阪. 2005. 8.
- 8) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 8.
- 9) 王 財源. 食養生で夏ばて知らず. 日本農業新聞. 東京. 2005. 8.
- 10) 王 財源. 蔵象学説. 関西中医学ネットワーク. 滋賀. 2005. 8.
- 11) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2005. 9.
- 12) 王 財源. 東洋医学概論. メディカル研究所. 東京. 2005. 9.
- 13) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2005. 11.
- 14) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2005. 12.

- 15) 王 財源. 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ. 愛媛中医学研究会. 松山. 2006. 3.
- 16) 王 財源. 中医眼科治療学. 日本良導絡自律神経学会. 大阪. 2006. 3.
- 17) 吉備 登. 医療面接. 平成 17 年度 鍼灸マッサージ師の生涯研修. 大阪. 2006. 1.
- 18) 坂口俊二. 各国のツボ事情と鍼灸の適応症. (社)全和歌山県鍼灸マッサージ師講演会. 和歌山. 2005. 9.
- 19) 東家一雄. 教育講演: 灸刺激の生体免疫系への作用. 第 24 回全日本鍼灸学会関東甲信越支部学術集会. 東京. 2005. 11.
- 20) 戸田静男. 鍼治療の基礎と実際. 大阪府鍼灸師会学術講習会. 大阪. 2006. 3.
- 21) 吉田宗平. パーキンソン病の治療とリハビリテーション. 新宮保健所難病対策事業・パーキンソン患者・家族の会. 那智勝浦町. 2005. 9.
- 22) 吉田宗平. パーキンソン病の治療とリハビリテーション. 田辺保健所難病対策事業・パーキンソン患者・家族の会. 田辺市. 2005. 9.
- 23) 吉田宗平. 更年期障害と肥満の・東洋医学的治療. 和歌山労災病院市民講座. 和歌山市. 2006. 1.
- 24) 吉田宗平. 脳卒中の予防と治療・一なぜ脳ドックは必要か?. 関西鍼灸大学附属診療所・健康教室. 熊取町. 2005. 9.

◇その他

- 1) 山口剛司, 高崎恭輔, 大工谷新一. 足圧中心変化に伴う足部周囲筋の筋積分値相対値変化. 関西理学療法学会助成研究報告. 大阪. 2005. 12.

◇研究助成

- 1) 吉備 登, 山本博司, 王 財源, 中吉隆之, 鈴木けい子, 高橋研一. 平成 17 年度科学研究補助金(基盤研究C). 医療系学生の代替医療に関する意識調査からの教育改革